

毎日の暮らしが 楽しくなるような家具づくり

株式会社門田木工

代表取締役

門田陽一さん

住所：〒840-2102

佐賀県佐賀市

諸富町大字為重172-3

TEL：0952-4714069

FAX：0952-4715095

HP：http://www.mondda3.com/



作業の様子

今月の夢追い人は、株式会社門田木工の門田陽一さんにお話を伺いました。(株)門田木工は、主に整理箆筒の製

作メインに事業をされています。1976年にお父様と叔父様が創業され、来年5月でちょうど50年になるそうです。3兄弟で家業に入られており、門田さんが2代目になるそうです。

「門田木工では素材にもこだわっていて、天然木を使っています。特に引き出しは、蟻組^{あり}という伝統的な組み方で仕上げている、これは木同士をしっかりと噛み合わせる技術なんです。接着剤を必要以上に使わずに済むし、その分、木の持つ自然な力を活かした丈夫で長持ちする家具になります。」

全国的にもイージーオーダー

家具の先駆けである門田木工。

「イージーオーダー家具は、高さ、幅、奥行、色をお選びいただけます。お家に合わせて一本からでもオーダー可能で、全国の販売店を通じて販売しています。細かいオーダーを受けながら生産性も上げたので、機械化できるところは機械に任せたり、職人の守備範囲を広げたりしています。一人が一つの工程を担当するのではなく、幅広く対応できると材料の渋滞も減ってきて、リードタイムが格段に短くなったと感じています。」

イージーオーダー家具に続き、第二主力商品があるそうです。



出入口



ドリームファニチャーコンテスト大川商工会議所会頭賞



アリ組み角マル加工

「リビングで個性的でありつつ、飽きることはない家具を目指し、完成したのが kumukumu シリーズです。無垢材を組むことから kumukumu という商品名になりました。今まで引

き出しに使っていた蟻組を本体にも取り入れていたので、歪みや反りがなく、より長く快適にご使用いただけます。また、無垢材の木目を生かすアリ組角マル加工を施しているので、角を丸く仕上げた優しい印象のデザインは、和室・洋室を問わず様々なタイプの部屋で長くお使いいただけます。」

門田さん自身、家業に入られたきっかけはあったのでしょうか。

「幼い頃から、ダボ打ちや配達など家業を手伝っていました。が、家業を継ぐつもりは全くなく、手伝いも嫌々やっていたのが本音です。でも、そのときからモノづくりそのものには自然と惹かれていたと思います。大学では情報分野を専攻し、パソコンやプログラミングに夢中になるほどのめり込んでいましたね。父や叔父の背中を見て育ったことが、自分にとって大きな影響を与えていたんだと感じました。自分自身もモノをつくる仕事がしたいと思うようになり、家業に入ることを決意しました。」

もともと家業を継ぐつもりはなかったとのことですが、実際に家業に入ったことで大川市という地域ならではの魅力や強みを体感したそうです。

「大川市は、機械や刃物、資材、塗料など、家具製造に関わるさまざまな関連業者が集積していると思います。生産基盤がしっかりと整っているため、ものづくりの現場としてとてもありがたいです。こういう強みがあるからこそ、細かなオーダーや特注のご要望にも柔軟に対応することができるとも、こう思っています。当社としても、こうした地域の支えが大きき力となっていますね。また、大川市は家具の配送ネットワークも全国トップクラスと言っても過言ではないと思います。大川の資材業者から当社に材料が納入され、それを製品化した後、大川の運送会社を通じて全国の販売店などへと出荷しています。地域全体で連携が取れているので、とても心強いです。」

大川活性化協議会に所属している門田さん。春の大川木工まつりでは、毎年大川活性化協議会が主催しているド

リームファニチャーコンテストにも携わっているそうです。「ドリームファニチャーコンテスト」は、大川市とその近郊に住む小学4年生から6年生までの子どもたちを対象に開催しています。このコンテストでは、子どもたちが自由な発想で描いた「夢の家具」のイラストを募集し、その中から選ばれた優秀作品を、大川の家具職人が実際の家具として再現制作します。このコンテストの大きな目的は、地元の子どもたちに大川の地場産業である「家具づくり」について理解と愛着を持つってもらうこと、そして大川の優れたモノづくりの技術を次世代へ伝えることです。実際に子どもたちの発想は大人では思いつかないようなユニークな視点にあふれていて、それをどう形にするかという点で、職人たちも頭をひねりながら取り組んでいます。製作する私たちにとっても大きな刺激になっていきます。子どもたちが木工の面白さや、モノをつくる楽しさに気づいてくれるといいですね。今回は大川商工会議所会頭賞、受賞作品を

製作担当しました。今後もドリームファニチャーコンテストを通じて、子どもたちがモノづくりの魅力に触れ、地場産業への関心を持ってもらいたいと思います。」

木工の魅力を広げるためにも活動されてある門田さんですが、そんな門田さんの夢はなんでしょうか。

「限りある大切な木材を使って家具を作る以上、ただ置くだけの家具じゃなくて、その家具があるだけで毎日の暮らしが少しでも楽しくなるようなモノを作りたいです。せっかく選んでいただいたからには、すぐに買い替えられるようなモノじゃなくて、長く大事に使ってもらえる家具を作りたいです。丈夫さももちろん大事ですが、それだけじゃなくて年月が経つほどに味が出てきて、買ってよかったなと思ってもらえるような家具を目指しています。一回限りの購入ではなく、リピートしてもらえらるよう。ファンになつてもらえらるよう。ひとつひとつ丁寧に作り続けたいです。」